

PLANET vanvan

90

2011 Spring
Presented by
PLANET,INC.

プラネットヴァンヴァン

「全銀TCP/IP+可変長」による 基幹EDIサービス活用事例

大日本除虫菊株式会社

商品マスタ登録支援 サービス活用事例

ジャペル株式会社

もっと知りたい! 標準取引先コード

卸売業における メンテナンスのフロー

プラネット太くんの社会科見学

印刷博物館

プラネット ラボラトリー
プラン&ネット

クローズアップ・ユーザー

CLOSE UP USER

「全銀TCP/IP+可変長」による 基幹EDIサービス活用事例

大日本除虫菊株式会社

本社 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-11
<http://www.kincho.co.jp/>

現在、プラネットの基幹EDIサービスは、
2つの通信手順 (AS2、全銀TCP/IP) と
2つのフォーマット (可変長、固定長) を組み合わせた、
全4パターンの接続が可能となっている。今回は、
2008年より「全銀TCP/IP+可変長 (TSV)」の
組み合わせを採用している大日本除虫菊を訪問し、
全銀手順からの切り替えの経緯や
その効果などについて伺った。

全銀手順に代わる通信手順を検討

「KINCHO (金鳥)」の商標で広く親しまれている大日本除虫菊株式会社。1885年の創業以来、世界で初めて「かとり線香」や「液体電気蚊とり」を発明し、日本初のアゾール「キンチョール」、臭いのつかない衣料用防虫剤「ゴン」を開発するなど、常に人々の生活に寄り添いながら、新しい発想でオリジナル商品を開発・提供し続けてきた。最近では、独自の新技术で長期間虫よけ効果を発揮する「虫コナーズ」シリーズが話題を呼び、大ヒット商品となっている。

同社では、早くから基幹EDIサービスを利用していただこともあり、通信手順は全銀手順をずっと使用していた。当初はさほど問題はなかったが、取り扱うデータ量の増大に伴い、通信トラブルの発生時やボリュームの多い販売データを受信する際に支障をきたすようになっていた。

「全銀手順では、販売データは1時間に約3万件しか取れません。当社の場合、連休明けなどはデータが20万件以上となり、受信に7時間近くもかかってしまいます。また通信時間が長くなると、それだけトラブルのリスクも高くなります。当然、再受信にも時間がかかりますから、通信トラブルが発生した際には受発注業務を優先して、販売データの再受信を夜間実施する、連休でデータ量の増加が想定される時には、休日出勤するなどして対応していました」と、情報システム部開発課の尾崎課長は当時の様子を振り返る。

そうした中、全銀手順・固定長フォーマットに代わる新たな組み合わせとして、プラネットより「AS2+可変長」への切り替えの提



上山 久史さん
専務取締役



尾崎 恭裕さん
情報システム部
開発課 課長

案を受けた同社は、2007年6月から情報収集と検討を始めたところ、いくつかの問題が浮かび上がった。

「AS2はシステムの構築費用が高く、また、認証の仕組みが複雑で、取り組みづらいという問題がありました。さらに一番の問題は、AS2がインターネットを使用した通信手順だという点でした。実は当社には、基幹系の処理にはインターネットを使用しないというセキュリティポリシーがあり、結局、採用は難しいということになりました」。

その後、通信手順の見直しは保留になっていたが、2007年12月にプラネットが全銀TCP/IPと可変長フォーマットの組み合わせをEDIのサービスメニューに追加。AS2とほぼ同様のメリットが得られるということで改めて社内で検討し、切り替えの実施を決定した。

安定した通信環境とコストダウンが実現

「全銀TCP/IP+可変長」の採用を決定してから、実際にシステムが稼働するまでの期間は約半年だった。2008年4月にディーラーと打ち合わせを開始し、必要なシステムの構築、通信環境設定等を依頼。8月に単体テスト、結合テスト等を実施して、9月には本番稼働した。

「今回、社内の基幹システムでは従来どおり固定長データを使



「金鳥の渦巻」と「キンチョール」

用し、プラネットとの通信部分のみ基幹系から切り離して可変長に変換し、EDIサーバーでやり取りする仕組みを採用しました。そのためにはデータ処理(ジョブ)の分割が必要で、一つのジョブを基幹システムでの前処理、EDIサーバーでの通信、基幹システムでの後処理、の3つに分けて、受発注、物流など別ジョブとの重複をコントロールするように仕様を変更しました」(尾崎課長)。

テスト中の並行期間は、データコピー機能を利用して、本番機とまったく同じデータを取得し、マッチングをした。「通信環境の設定やデータの変換などはディーラーに任せただので、さほど苦労はありませんでした。稼働後に設定変更ミスによるトラブルが発生した際は、初めてということもあって対応に手間取りましたが、全体としてはスムーズに移行できたと思います」。

切り替え後の効果として同社が一番に挙げたのは、通信スピードの向上。これまで1時間かかっていた3万件の販売データ受信が、約15分で完了するようになり、大型連休時にも休日出勤をする必要がなくなった。また、通信時間が短縮したことで、トラブルも激減したという。

「昔は通信上のエラーが月に1回くらいありましたが、全銀手順に比べて全銀TCP/IPは安定しており、通信時間も短いので、最近では通信エラーによるトラブルは一切ありません」。

一方、費用の面でもメリットは大きかった。通信時間の短縮とデータ種変更による通信コストの低減はもちろん、システムの安定化によるトラブル対応の減少など、目に見えない部分の効果もあった。さらに、2011年1月からのプラネットの料金改定により、さらなるコストダウンが実現している。

げてきた財産ともいえるシステムやポリシーがあり、すぐにすべてを変えることはできません。今回、専用ネットワーク(閉域IP)を利用する全銀TCP/IPと可変長という組み合わせをプラネットが用意してくれたため、基幹系にインターネットを使用しないという当社のポリシーを堅持したまま、新しいデータフォーマットに取り組むことができました」。

さらに、可変長のデータフォーマットを採用した理由については、「今はコストダウンのメリットばかりに目が行ってしまっていますが、それよりもデータ種としての将来性、可能性に投資していると私たちは考えています。今のうちから、徐々にこうしたデータを扱える環境を整えていくことが大事なのです」。

同社は近年、情報系システムを強化し、営業支援に注力している。すでにPOS分析や販促金管理、店頭分析、営業日報などに取り組んできたが、今後はさらに、販売データの有効活用が重要課題の一つだという。現在、販売データを受発注データと同じく基幹系システムで処理しているが、営業が販売データをタイムリーに確認できる仕組みが必要だ。モバイル端末も視野に入れた販売データ活用の検討を進める中で、可変長でデータを取っていることのメリットが生きてくるはずだと上山専務は語る。

最後に、上山専務よりプラネットへリクエストをいただいた。「販売データの活用について、自社で集められる情報には限りがあります。プラネットにはぜひ、「この仕組みでこれだけ変えることができた」という成功事例を数多く紹介してほしいと思います」。

ご期待どおりユーザーの皆様のお役にたてるよう、プラネットとしても今後、一層の情報提供に努めていきたい。

将来の拡張性を見据えた選択を

「全銀TCP/IP+可変長」への切り替えについて、上山専務取締役は次のように総括する。

「当社の業務は時期によって波があり、ピーク時の対応には苦労していました。ですから処理時間が短縮され、作業が標準化できたこと、トラブルが少なくなったことは大きな成果です」。

オープン化は世の中の流れですが、社内にはこれまでに築き上



空間用虫よけ「虫コナーズ」シリーズ

CLOSE UP USER

商品マスタ登録 支援サービス活用事例

ジャペル株式会社

〒486-0802 愛知県春日井市桃山町3-105
<http://www.japell.com/>

ペット関連商品の専門商社として、
業界を牽引するジャペル株式会社では、
2009年に商品マスタ登録支援サービスを導入した。
導入の背景やペット業界ならではの課題、
業界全体の業務効率化を見据えた
今後の展望等について伺った。

マスタ項目の改編に合わせてサービスを導入

1970年設立のジャペル株式会社は、ペットフードをはじめとするペット関連商品の専門商社。「ペットを通じた地域社会とのコミュニケーション」をモットーに、ペットに関わる事業を全国で多角的に展開し、ペット業界において確固たる地位を築き上げてきた。

同社では、自社内の商品マスタ項目の見直しに合わせて、2009年に商品マスタ登録支援サービスを導入した。

「ITFからGTINへの変更や、時代に応じたマスタ項目の追加・変更が必要となり、商品マスタを作り直そうとしていた時期に、プラネットの商品マスタ登録支援サービスを知りました。商品データベースを共有できるこの仕組みが普及すれば、将来的にペット業界全体の業務効率化につながるということで、我々が率先して取り組むべきではないかと考え、導入を決定しました」と、商品部の深谷課長は導入経緯を説明する。

それまでのマスタ登録業務は、仕入先からメールで送られてくるエクセルフォーマットの商品マスタ情報を、商品部の担当者が1名で処理していた。マスタ登録業務を担当する菅原さんは、「エクセルのデータは入力もれやミスが多く、カナの半角・全角まで一つひとつ目視でチェックしていました。ペット関連商品は改廃が年2回に集中するため、その時期は3,000～4,000SKU /月の入れ替えが発生し、とくに大きな負荷となっていました」と語る。

商品マスタ登録支援サービス導入に際しては、既存の仕組みをそのまま移行するのではなく、自社のマスタとプラネットの商品マスタ項目とのすり合わせや、登録項目の追加・変更をプラネットとともに綿密に行った。



山田 伸司さん
執行役員
営業本部 商品部長



深谷 征宏さん
営業統括本部 商品部
課長



菅原 和敏さん
営業統括本部 商品部
仕入企画課 主任

「マスタ項目に関して、プラネットからいろいろとアドバイスをいただき、今後の社内マスタのあり方も含めて、大変勉強になりました。感謝しています」(菅原さん)。

また、社内の内部統制上、今回のシステム変更を機に、担当者および上長による二段階承認のワークフローを商品マスタ登録業務にも取り入れた。

のべ14回の説明会で仕入先に周知徹底

商品マスタの登録方法を変更する上で、最も力を入れたのが、仕入先メーカーへの周知徹底だった。

「こうした取り組みは最初が肝心です。当社では商品マスタ登録支援サービスの導入にあたり、全ての仕入先様に対して、プラネット商品データベースへの商品情報の登録徹底をお願いしました。ところが中堅・小規模のメーカーには商品データベースについてよく知らないご担当者が意外と多く、中には『利用に際して料金が発生するのではないかと心配して問い合わせる企業もあったのです」(深谷課長)。

そこで同社は、プラネットと共同で、仕入先に向けた説明会を繰り返し開催した。

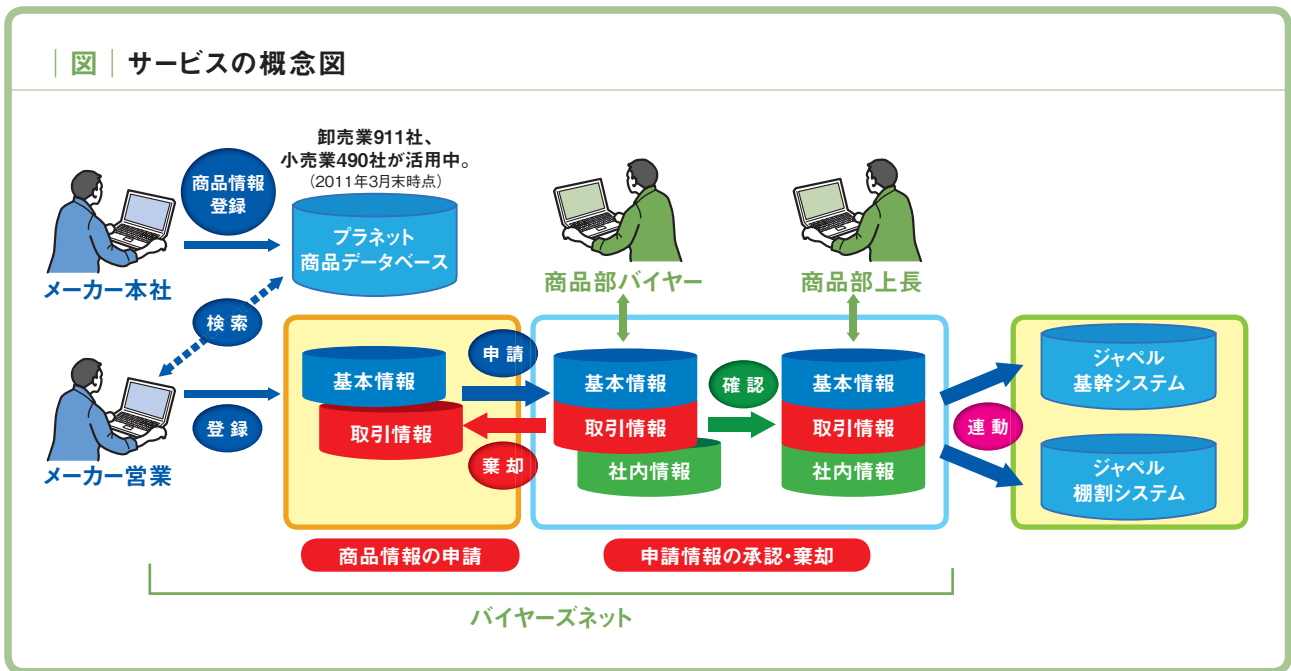
「名古屋駅前に会場を借り、合計4日間、のべ14回にわたって行いました。まずは2009年7月に取扱いアイテムの多いメーカー様を対象に実施して、8月から商品マスタ登録支援サービスの運用を開始。さらに同年12月、そのほかのメーカー様向けの説明会を開き、2010年1月から全面的に導入しました。現在では、すべてのメーカー様に商品マスタ登録支援サービス経由でマスタ情報を送信いただいています」。

その後も、新たにメーカーと取引を始める際は、その都度、商品マスタ登録の仕組みを説明し、必ずプラネット商品データベースへの登録をお願いしているという。

こうして、すべての仕入先がプラネット経由で登録するようになったことにより、自社の商品マスタ情報を仕入先と共有できるようになった。

「これまでは商品マスタが新規に登録された後に、当社が付番した商品コードをメールで仕入先メーカーのご担当者にお知らせしていましたが、今では商品マスタが登録されると、当社商

図 | サービスの概念図



品コードの入った商品情報が90日間、プラネットの中で保存されます。仕入先様は商品マスタ登録完了のメールが届き次第、専用画面で確認できますので、レスポンスの向上を実感されているかと思います」(菅原さん)。

ペット業界を挙げた取り組みが不可欠

ただし、商品マスタ登録支援サービスの有効活用については「まだ道半ばというところ」と山田部長。

「我々の業界には『ペットフード安全法』という法律があり、トレーサビリティの観点から原産国等の管理が義務付けられています。このように、プラネット商品データベースには登録されていない、当社独自の管理項目は多数あります。また、製造工場の変更に伴う原産国の変更は最近では珍しくありませんので、商品改廃やパッケージなどと同様、タイムリーなメンテナンスが欠かせません」。

また同社の場合、商品の取り扱い幅が広く、人々の食の安全につながる家畜の飼料も扱っていることから、「飼料安全法」の規定で8年間データを保存しなければならない。そのため、商品マスタ登録をプラネット経由に切り替える以前の、膨大な過去データのメンテナンスが大きな課題となっている。

「これらのデータもすべてプラネット商品データベースに取り込んでメンテナンスしてもらえるのが理想ですね」。

深谷課長からは、具体的なプラネットへの要望として、次の点を指摘いただいた。

「今いちばん困っているのは、商品名の統一です。最近は商品名が長いものが多く、伝票に出力する際には短縮表記が必要です。この短縮された商品名がメーカー内で統一されていないため、同じ商品でも扱う卸売業が異なると、違う名称がついていることがあります。これは業際統一伝票にも関わってくる部分ですから、ぜひプラネットが中心となって、桁数に応じた商品名短縮表記のルールを周知・徹底していただきたい」。

プラネットはこの件やペットフード安全法への対応について、メーカー・卸売業の業界団体と連携して検討を進める予定だ。

最後に、山田部長がこう締めくくった。

「いろいろと課題はありますが、我々はプラネットの取り組みに大いに期待しています。メーカー、卸売業、小売業というサプライチェーン全体で商品データベースを共有できれば、ペット業界自体の業務効率化と競争力の強化につながります。そのためには、まず我々卸売業が商品データベースを活用し、仕入先様に商品データベースへの登録を徹底するよう働きかけていくべきです。また、プラネットにはメーカー各社と連携し、商品の改廃等の情報を含む商品データベースのメンテナンスをぜひお願いしたい。業務を効率化するには、何件登録があるかではなく、何件“活きた登録”があるかということが、もっとも重要なのですから」。

ユーザーの声

山田 正明さん

ドギーマンハヤシ株式会社 営業企画部 部長

商品データベースに日々登録している商品情報が、お得意先のマスタ登録に活用され、業務効率化のお役に立てるのは嬉しい限りです。これからも“鮮度”と“精度”に留意した商品情報メンテナンスに努めてまいります。

小野 努さん

ドギーマンハヤシ株式会社 名古屋営業所

マスタの項目は以前より増えましたが、商品データベースの情報を活用できるので、操作性が良くなり、助かっています。マスタ登録済の自社商品全てを画面で随時確認できるようになると、もっと便利ですね。

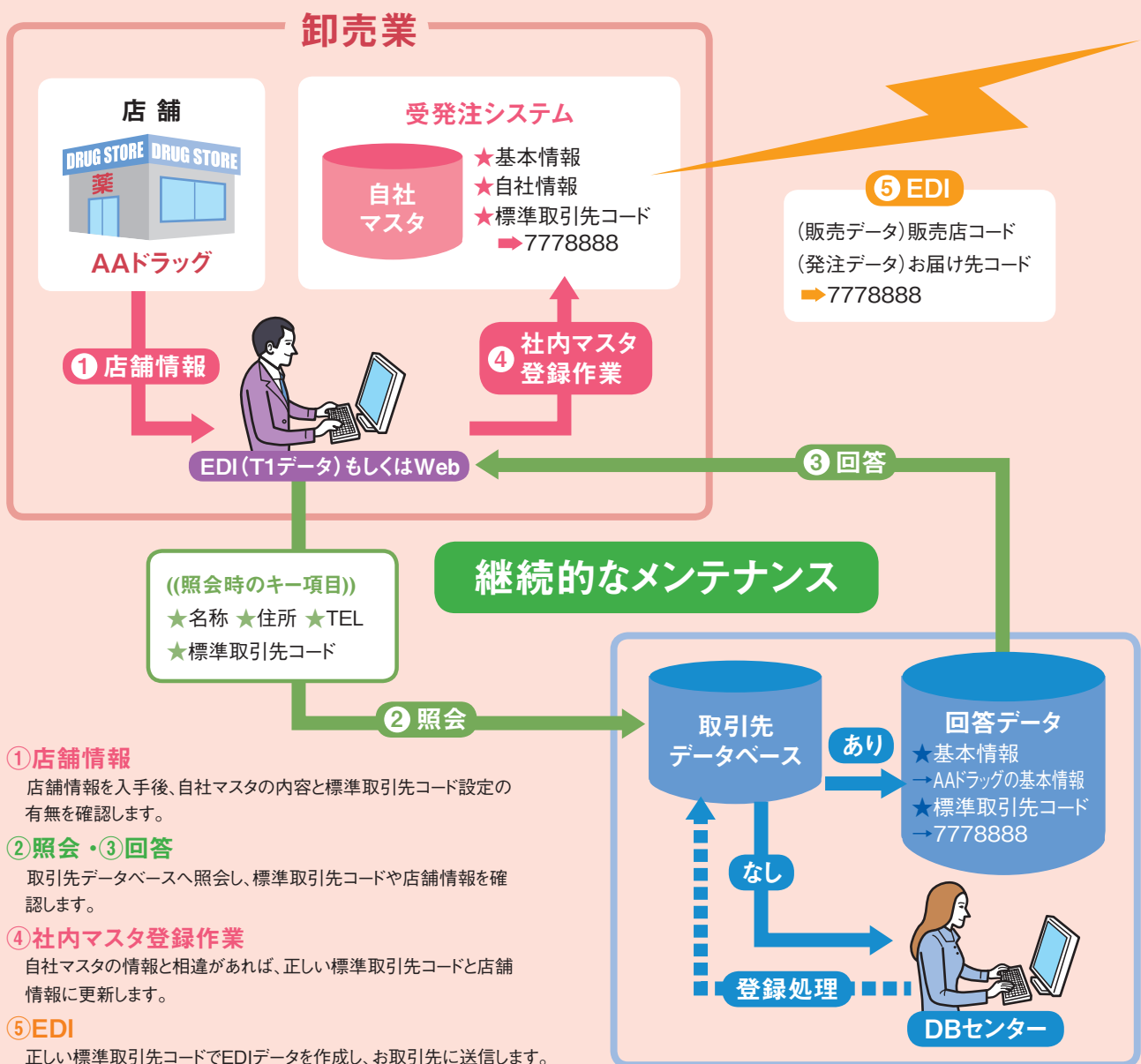
標準取引先コード

これまで、EDIの各データで標準取引先コードが利用されていることや、業務効率化を図るためには標準取引先コードの正確性が重要であることをご説明してきました。

今回は、正確な標準取引先コードの設定に向けて、卸売業におけるメンテナンスのフローをご紹介します。実務に携わるみなさまの参考になりましたら幸いです。

卸売業におけるメンテナンスのフロー

EDIにおいては、正確な標準取引先コードをセットすることが重要です。小売業の新規開店や閉店・廃業、合併に伴う店舗名称や標準取引先コードの変更、移転に伴う住所や電話番号の変更は日々発生していますので、標準取引先コードについては継続的なメンテナンスが欠かせません。下図にて、その業務フローをご紹介します。



【継続的な自社マスタメンテナンスのお願い】

名称や住所の変更、店の統合や閉店など、店舗の情報は日々変わっていますので、標準取引先コードも含めた自社マスタの定期的な整備をお願い申し上げます。

継続的なメンテナンスを効率的に行うには

標準取引先コードを効率的にメンテナンスする方法として、自社で管理している標準取引先コードを整備する「再照会」と、取引先データベースの内容を更新する「変更連絡」がございます。

- **再照会**……標準取引先コードをセットして送信すると、取引先データベースに現在登録されている店舗情報が照会できます。
 - ➡ 最新の店舗情報や、既に標準取引先コードが変更されている場合には、変更後の標準取引先コードを確認できます。
- **変更連絡**……店舗情報の変更内容をご連絡いただき、取引先データベースの情報を更新いたします。
 - ➡ ご提供頂いた内容についてDBセンターが確認を行い、更新結果をご連絡いたします。

なお、再照会や変更連絡を行うための手段としては、**EDI**(取引先コード照会TSVデータ<T1データ>)を使用)と**Web**(ファイル検索と変更連絡)がございます。

EDI(T1データ)でメンテナンスするとき

T1データを使うと、EDIによる照会が行えます。自社マスタと自動連動させることで、作業負荷の軽減が図れます。また、T1データはTSV形式ですので、漢字による照会と回答が可能です。 ※同一フォーマットにて再照会と変更連絡が行えます。

内容	照会データ(TSV)				内容	回答(TSV)			
	標準取引先コード	名称	住所	電話番号		標準取引先コード	名称	住所	電話番号
再照会	2223333	BBドラッグ	東京都…	03-1234-5678	再照会	7778888	AAドラッグ	東京都…	03-1234-5678
変更連絡①	5556666	スーパーCC	神奈川県…	045-987-6543	変更連絡①	5556666	スーパーCC	神奈川県…	045-987-6543
変更連絡②	6667777	EEコンビニ	千葉県…	043-345-6789	変更連絡②	4445555	EEコンビニ	千葉県…	043-345-6789

再照会……表例では、取引先データベースの最新情報を回答しています。

(取引先データベース上では、既に2223333(BBドラッグ)は7778888(AAドラッグ)に変更されています)

変更連絡①……表例では、電話番号の変更ご連絡を受けて取引先データベースの情報を変更し、その結果を回答しています。

変更連絡②……表例では、名称変更のご連絡を受けて、EEコンビニに新しい標準取引先コード(4445555)を付番した結果を回答しています。

Webでメンテナンスするとき

インターネットに接続されているPCからコードの照会や変更連絡が行えますので、システム構築は不要です。再照会には取引先データベースWeb機能の「ファイル検索」、変更連絡には「センター照会」画面上部のタブからリンクが張られている「変更連絡」をお使いください。

【ファイル検索】 ※1回あたりの照会件数は最大5000件です。

再照会データは、CSVファイルをアップロードして照会します。

内容	照会データ(CSV)				内容	回答(CSV)			
	標準取引先コード	名称	住所	電話番号		標準取引先コード	名称	住所	電話番号
再照会	2223333	BBドラッグ	東京都…	03-1234-5678	再照会	7778888	AAドラッグ	東京都…	03-1234-5678

【変更連絡】

変更対象の標準取引先コードと変更項目を入力して送信ください。DBセンターが内容確認後に取引先情報を変更し、結果を回答いたします。

詳細な操作方法は『Vol. 2』(本誌89号11ページ)で紹介していますので、ぜひご参照下さい。

標準取引先コードについてのお問い合わせ先
株式会社プラネット DBセンター
Tel. 03-5962-0813
E-mail code-center@planet-van.co.jp

※平日16時までにコードをご照会いただけましたら、当日中にご回答申し上げます。

取引先データベースご利用のお申し込み先
株式会社プラネット コールセンター
Tel. 03-5962-0811
E-mail sc@planet-van.co.jp



※このコーナーでは、当社のオリジナルキャラクター「プラネット太くん」が、プラネットサービスご利用のお客さまを訪問し、さまざまなトピックスについてお話を伺います。

プラネット太くんの 社会科見学

イラスト/松島むう

今回
おじゃま
したのは……



印刷博物館

〒112-8531
東京都文京区水道1丁目3番3号 トッパン小石川ビル
<http://www.printing-museum.org/>

コミュニケーション・メディア としての印刷に触れる空間

印刷は、新聞や雑誌、書籍はもちろん、商品のパッケージや、DVD・CDや電子部品の製造に至るまで、今日の私たちの生活に欠かすことのできない技術です。今回は、凸版印刷株式会社が運営する印刷博物館を訪れ、さまざまな展示を拝見しながら、印刷の歴史に触れてきました。

“感じる・みつける・わかる・つくる”で、理解を深める

印刷は、太古から現代に至る歴史の中で、コミュニケーション・メディアとして社会や文化を支えてきたものです。その印刷という営みをさまざまな視野からとらえ、一般にも広く知っていただきたいと願って、凸版印刷が創業100周年を迎えた2000年に、この印刷博物館をオープンしました。

館内は大きく分けて「プロローグ展示ゾーン」、「企画展示」、「総合展示」、「印刷工房」の4つで構成されており、それぞれ“感じる・みつける・わかる・つくる”というキーワードで、印刷に触れていただくことができます。収蔵資料は、1200年以上前の印刷物から、日本で最初の銅製活字、古いポスターや

チラシ、歴史的な書籍や雑誌、最近の印刷物に至るまでバラエティに富んでいます。また、印刷に関する理解と知識が深められるように、サインパネルや解説モニターも設置しています。

なお当館では、展示替えに合わせて空間も変化する博物館を体験できるように、常設と企画の展示ゾーンを分けず、企画展示をメインに展示アイテムを入れ替える可変型展示システムを採用しております。

展示の他にも、デジタル技術を駆使した映像を上映するVRシアターや、当館のオリエンテーションや映像ソフトの上映を行うグーテンベルクルームなどがあります。



宗村 泉さん
学芸企画室長

— 感じる —

このプロローグ展示ゾーンは
見て感じてほしい
スペースなので、あえて
説明看板は
つけていません。



(注) VRシアターについては、展示施設と利用時間等が異なります。

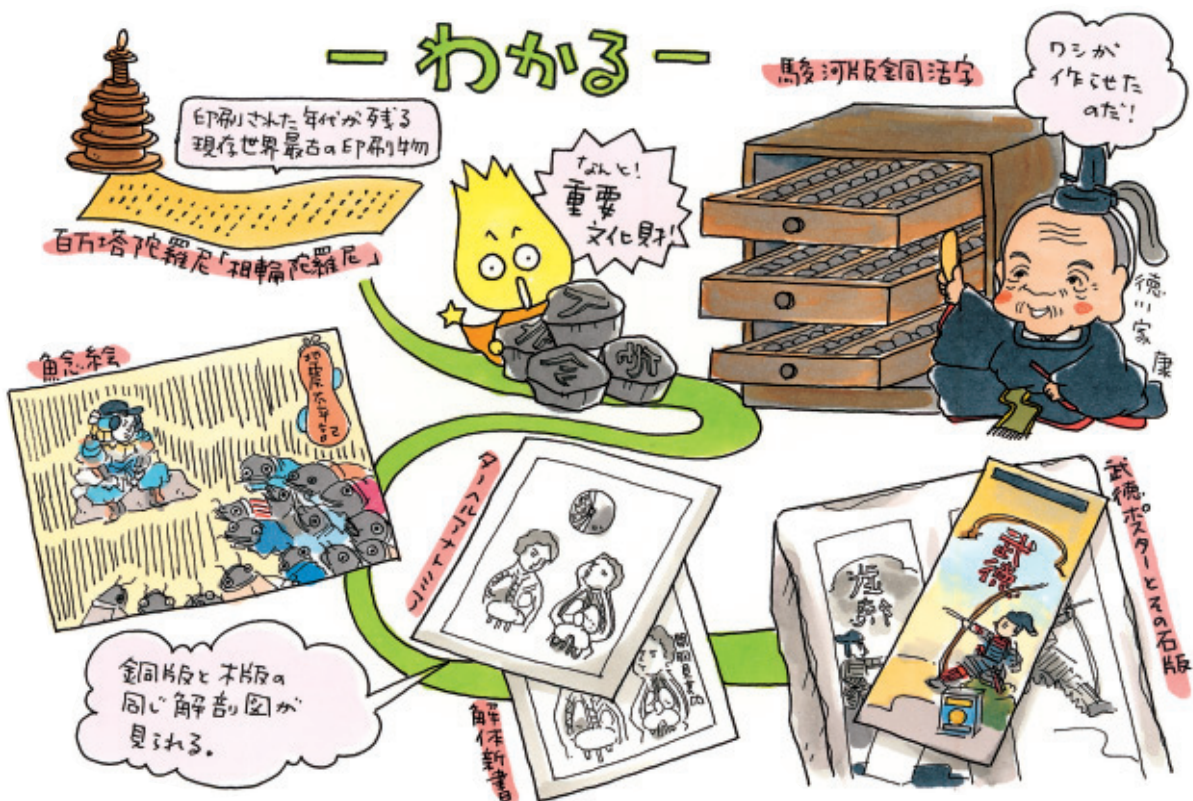
展示物には、重要文化財も！

数多い展示物のなかでも、「駿河版銅活字」は、重要文化財の指定を受けており、是非ご覧いただきたいもののひとつです。これは、徳川家康が朝鮮伝来の銅活字をもとにつくらせた日本で最初の銅製活字です。1607(慶長12)年に、家康が駿府城(静岡県)に隠居してから林羅山と金地院崇伝に命じて鑄造させたもので、『大蔵一覽集』11巻、『群書治要』47巻などの刊行に使用されたとのことで、これらを駿河版と言います。総数11万本余あったとされるこの銅活字も、その後の火災によって大半を焼失し、現存するのは約3万8千本です。重要文化財に指定されたのは1962(昭和37)年で、我が国の印刷

文化を伝承するうえでも、たいへん貴重な資料です。

また、おなじみの福沢諭吉『学問のすゝめ』初版本もご覧いただけます。この本は、『学問ノススメ』とカタカナで表記されることが多いのですが、初版本ではひらがなで印刷されていたのです。ご存じでしたか？

当館には、このような紙の資料に加えて、「西洋式木製手引き印刷機」(復元)や「スタンホーププレス」など海外の印刷文化の発展を支えてきた機器類の展示もありますので、さまざまな角度から「印刷」に関する新たな出会いや発見を楽しんでいただけたらと思います。



開館時間	10時～18時(入場は17時30分まで)
休館日	毎週月曜日(ただし祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間
入場料	一般:300円(250円)、学生:200円(150円)、中高生100円(50円) ※企画展期間中は入場料が変わります。小学生以下、65歳以上は無料 ※()内は20名以上の団体料金

店頭デザイン大解剖展～つい買いたくなるお店の「しかけ」とは？

店頭でお客さまをひきつけ、買いたい気分にする、優れた販促ツールや陳列手法の事例を多数ご紹介しています。

- 会 期 ● 2011年2月1日(火)～2011年5月8日(日)
 休 館 日 ● 毎週月曜日
 開館時間 ● 10:00～18:00
 入 場 料 ● 無料 ※印刷博物館本展示場にご入場の際は入場料が必要です

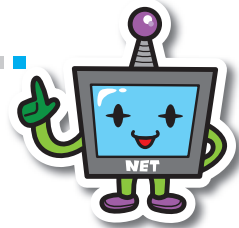




PLANET

プラネットラボラトリー

LABORATORY



このコーナーでは、プラネットのサービスやお寄せいただくお問い合わせについて
毎回詳しくご紹介・解説いたします。

？コトカノテーマ？ 「EDI新サーバ稼働に伴う接続テストとは？」

2011年8月15日より、プラネットEDIサービスの新サーバが稼働します。



新サーバに切り替わると

安全性が▲UP + 拡張性が▲UP

しますので、より安心してご利用いただけます。

コ コ に 注 目 !

新サーバで何が変わる？ ➡ **プライベート・クラウド環境を採用！**

- ★より安全性の高い環境でEDIサービスをご利用頂けます。
- ★高性能な災害復旧(DR)機能をご提供致します。 ※DR:Disaster Recoveryの略です
- ★将来の機能追加に対応する拡張性を備えたシステムとなります。

接続テストの実施のお願い

オンラインでEDIサービスをご利用のユーザー様は新サーバ稼働後もスムーズに接続できるよう、事前の“新サーバへの接続テスト”で正常に接続できるか、ご確認をお願い致します。

起こり得る現象

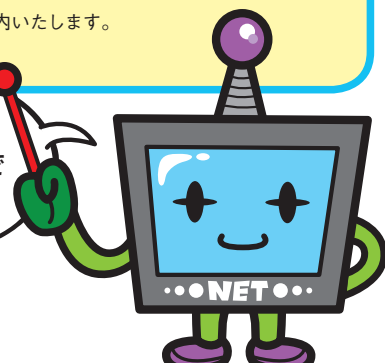
- 通信機器の相性による通信エラー
 - 設定変更漏れなどによる接続エラー
- ※ルータなど通信機器上にプラネット接続用の個別設定がないか、必ずご確認ください。

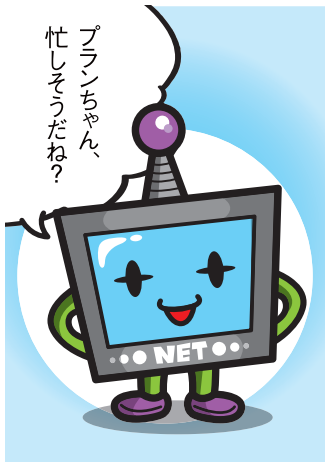
“新サーバへの接続テスト”についての詳細は2011年1月にお送りした案内文書をご確認ください。

※新サーバ稼働の詳細につきましては、6月頃に改めて文書にてご案内いたします。

接続テストについて
分からない事はプラネットまで
問い合わせよう

お問い合わせ先 | (株)プラネット ネットワーク管理部
Tel. 03-5962-0812 E-mail syskan@planet-van.co.jp

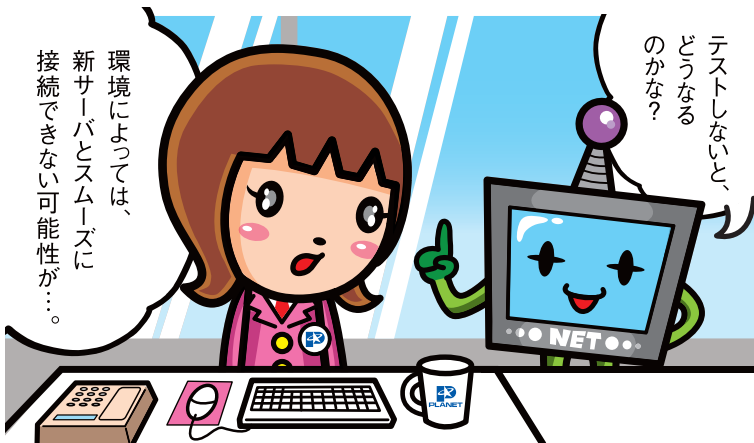




プランちゃん、
忙しそうだね？



みなさんに
ちゃんと
お知らせ
しないと…！



環境によっては、
新サーバとスムーズに
接続できない可能性が…。

テストしないと、
どうなる
のかな？



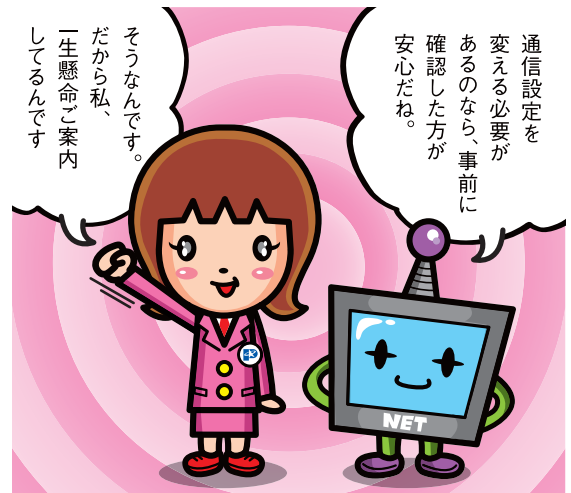
ええ。
8月のED1新サーバ
稼働に向けて、
サービスをご利用の
みなさまに、接続テストの
ご案内をしています。



テスト用の設定で
データを送受信するだけなんです。
運用照会画面できちんと確認
できれば無事完了、
OKです！



ちなみに、
接続テストを
するには、
どうしたら
いいんだい？



そうなんです。
だから私、
一生懸命ご案内
してるんです

通信設定を
変える必要が
あるのなら、事前に
確認した方が
安心だね。



くわしくは10ページの
**PLANET
LABORATORY**
をご覧ください。

「**接続テスト**」を
済ませておけば、
新サーバ稼働後も安心、
憂いなしです！

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に、

謹んでお見舞いを申し上げます。

一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

日用品・化粧品やペットフード・ペット用品、OTC医薬品をはじめとした消費財メーカー・卸売業間における商取引の電子データ交換(EDI)や、商品情報や納品先情報のデータベース、消費財流通に携わる企業間で情報を共有する「バイヤーズネット」などの弊社サービスは、かねてからのBCP対策が功を奏し、震災後も安定してご提供しております。

今後、電力不足が懸念されていますが、発電機を備えた首都圏のデータセンターに各サービス向けのマシンを設置しているため、電力が途絶えることはないものと思われれます。万が一の場合であっても、大阪のデータセンターに予備機を準備してありますので、弊社のサービスが止まることはありません。消費財の流通インフラとして社会的責任を果たすため、万全の対応をいたしております。

なお、当社は、この地震によって被災された方々の救援や被災地の復興に少しでもお役立ていただくために1千万円の義援金を提供することいたしました。

当社から寄贈する災害義援金は、日本赤十字社を通して被災地の皆様へ届けられる予定でございます。

株式会社プラネット 代表取締役社長

たま にゅう ひろ まさ
玉生 弘昌

編集協力書籍刊行のご案内

当社が編集に協力した書籍『ITインフラ活用経営—流通業のサプライチェーンマネジメントを実現する』が2月28日に刊行されました。ドラッグストアなどの流通業に造詣の深いルポライターの浅野恭平氏が、日本の小売業が抱えるレガシー問題を浮き彫りにし、いまや時代遅れの受発注システム「EOS」に警鐘を鳴らしている同書は、業務効率化を考える経営層の方に おすすめの一冊です。



著者紹介

浅野恭平

1950年栃木県生まれ。北海道大学文学部卒業。雑誌編集者や週刊誌記者を経て、現在はフリーのルポライターとして活躍。主な著書に『フレッシュシステムズのすべて』(明日香出版社)、『いなか』の挑戦(実務教育出版)など。

【お問い合わせ先】 (株)プラネット 経営企画室

Tel. 03-5962-0811 E-mail keiei@planet-van.co.jp

お知らせ

今号は「PLANET PLAZA」を休載し、「PLANET LABORATORY」と「PLAN&NET」の掲載場所を変更しております。

PLANET
van van 90

第90号 2011年4月

発行/株式会社プラネット
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目31番
文化放送メディアプラスビル3階
TEL. 03-5962-0811

発行人/玉生弘昌

編集協力/株式会社砧書房

デザイン/太田康士(Hitricco Graphic Service)

印刷/株式会社太平印刷社

